令和６年白老町議会全員協議会会議録

令和６年１月１９日（金曜日）

開　　会　　午後　２時００分

閉　　会　　午後　２時５２分

〇議事日程

１．白老町ＤＸ推進計画（案）について

〇会議に付した事件

１．白老町ＤＸ推進計画（案）について

〇出席議員（１４名）

１番　水　口　光　盛　君	２番　田　上　治　彦　君
３番　氏　家　裕　治　君	４番　長谷川　かおり　君
５番　西　田　祐　子　君	６番　前　田　弘　幹　君
７番　森　山　秀　晃　君	８番　佐　藤　雄　大　君
９番　貳　又　聖　規　君	１０番　前　田　博　之　君
１１番　森　　哲　也　君	１２番　飛　島　宣　親　君
１３番　広　地　紀　彰　君	１４番　小　西　秀　延　君

〇欠席議員（なし）

〇説明のため出席した者の職氏名

町　　長	大　塩　英　男　君
副　町　長	大　黒　克　巳　君
総　務　課　長	高　尾　利　弘　君
総　務　課　主　幹	森　　誠　一　君
総　務　課　主　査	今　井　　卓　君
企　画　財　政　課　長	増　田　宏　仁　君
企画財政課行政改革室長	高　橋　裕　明　君
企画財政課行政改革室主任	榧　野　　誠　君
企画財政課行政改革卒主事	高　橋　大　騎　君

〇職務のため出席した事務局職員

事　務　局　長	本　間　　力　君
主　　幹	小山内　　恵　君

◎開会の宣告

○議長（小西秀延君）　ただいまより全員協議会を開会いたします。

（午後　２時００分）

○議長（小西秀延君）　本日の全員協議会の案件は、「白老町ＤＸ推進計画（案）について」であります。町側より説明を求めます。

大塩町長。

○町長（大塩英男君）　全員協議会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。ＤＸの推進につきましては、本年度の町政執行方針の中でデジタルを活用した誰もが利用しやすい便利なオンライン役場の実現に取り組むことを申し上げさせていただきました。議員の皆様もご承知のとおり、現在のデジタル技術の進展はすさまじいスピードで進んでおりまして、デジタル技術の進歩はこれまで以上に身近に感じられるようになりました。そのような中で、町といたしましては、本年度から来年度にかけまして窓口、公共施設におけるキャッシュレス決済や書かない窓口、町民の皆様が役場に足を運ばなくても申請手続きができるオンライン申請システムの導入などを実施する予定としております。町政施行 70 周年の節目の本年において、本町のデジタル元年と位置づけまして、人口減少等の社会課題への対応と行政サービス、町民サービスの向上を図るべく、本計画に基づいて取組を進めてまいりたいと考えておりますので、議員の皆様方のご理解とご協力を賜りたいと思います。本日は、本町のデジタル化の方向性を示します白老町ＤＸ推進計画（案）についてご説明をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（小西秀延君）　榧野企画財政課行財政改革室主任。

○企画財政課行財政改革室主任（榧野　誠君）　本日、説明に当たりましては正面にスクリーンがございます。こちらに表示されております白老町ＤＸ推進計画（案）の資料に基づいて、主に説明をさせていただきます。別冊でお配りしている白老町ＤＸ推進計画（案）の原本等につきましては参考資料として御覧ください。

まず初めに、定例会でも度々取り上げられておりましてご存じかと思いますけれども、ＤＸと言いますのはデジタル・トランスフォーメーションの略です。もともと2004年にスウェーデンの研究者ストルターマン教授という方がいるのですけども、その方によってＩＣＴの浸透が人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させることとＤＸを定義しております。人口減少、少子高齢の進行によりまして、税収の減少や地域経済の縮小、地域活力の低下など、様々な課題が表面化してきておりますけれども、その課題解決の一つの手段として近年の技術革新が目覚ましいデジタル技術を活用しまして、行政サービスの向上を目指していくための基本計画、これが今回皆様にご説明をさせていただきます白老町ＤＸ推進計画案でございます。町としてＤＸを進めることで、デジタル技術でよりよい行政サービスを町民に提供していくことを目指すことになります。ただそれだけではなく、これ以上にデジタル技術を積極的に活用して、

住民の多くのメリットを享受すると共に、これまでにない価値を提供して、行政サービスを向上させ、ひいては自治体の存在価値を高めていくこと。これが自治体における真の意味でのデジタル・トランスフォーメーションと言えると考えております。

続きまして、これまでの経過と今後の予定についてでございます。令和５年８月、ＤＸ推進委員会の作業部会を発足させました。こちらについては、各組織、各課から１名ずつ職員を出していただきまして、オブザーバーとして総務課情報グループの情報分野に長けている方１名で主に構成されております。このメンバーを中心に今回のＤＸ推進計画（案）をつくっていくために、11月までに合計５回作業部会を開催いたしまして、議論を深めてまいりました。12月には副町長を議長とします情報化推進会議そしてＤＸ推進委員会に策定案としてつくり上げた計画案をご審議いただきました。本年に入りまして、今回議会全員協議会で議員の皆様に周知、意見調整をさせていただく次第でございます。来月に入りましたら、パブリックコメントを予定しております。３月、今年度末ぎりぎりになりますけども、改めて情報化推進会議、ＤＸ推進委員会、こちらで計画策定の流れで考えております。

続きまして、今回作成したＤＸ推進計画（案）をご説明させていただきます。このページから資料中に括弧書きでページ数を記載しております。こちらは別冊でお配りしている推進計画案のページ数でございます。そちらを細かく説明することはございませんけども、参考として記載しております。策定趣旨ですけども、記載のとおり人口減少等の社会課題への対応と行政サービス向上の両立を図るためデジタル技術を町として活用していくものでございます。その中では、第６次総合計画のまちの将来像実現のために令和９年度までの５年間のデジタル化の方向性を示す総合的な計画として位置づけております。

次に、国や北海道における状況についてご説明します。国でも皆様ご存じのとおり、デジタル化を推進しております。デジタル社会のビジョンとして、誰一人取り残さない、人にやさしいデジタル化を国は目指しております。デジタル化を進める際、自治体に関連する施策が多くなってくるため、国が主導的になりながらも、自治体全体として足並みをそろえて取り組んでいく必要がありますので、自治体が重点的に取り組むべき事項や内容を具体化した自治体ＤＸ推進計画を令和２年度に国は策定しております。それに基づきまして、自治体もそれぞれ個別にＤＸ推進計画をつくる義務はないですけども、それぞれの自治体で積極的なデジタル・トランスフォーメーションが進められております。

続いて、北海道におけるデジタル化の背景についてです。北海道も同様にデジタル化に力を入れておりまして、令和元年度には北海道Ｓｏｃｉｅｔｙ（ソサエティ）5.0 構想を取りまとめております。これは、北海道が直面する様々な課題に対して、デジタル技術では、まだ見ぬ未来技術を積極的に利活用して 10 年後の北海道の未来社会を見据えている、そのような構想でございます。こちらの図に示しているとおり狩猟社会を 1.0 の段階にしまして、そこから段階的な社会の姿を示して 5.0 新たな社会といった段階を示しています。5.0 の段階は国で言っているのはサイバー空間と実空間を高度に融合させることによって、経済的発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会とされています。今現在では未来的とされている取組は当たり

前の日常になってきて、それによって社会そのものが今から想像がつかないような世界に大きく変革したもの、それが5.0の世界と考えられます。

続きまして、デジタル社会を実現するための３ステップについてです。こちらの図で示しておりますとおり、３ステップはデジタイゼーション、デジタライゼーション、デジタル・トランスフォーメーションといった３段階と言われております。こちらのステップ１のデジタイゼーションですけども、書類を紙で管理しているものをＰＤＦ化するなどアナログデータのデジタル化を指しております。次のステップ２のデジタライゼーションについては、オンライン上で申請書とかを受け手側もそのままオンライン上で決済、決定して、電子媒体で許可証などを交付するようなプロセスのデジタル化でありまして、デジタル化することによって様々な点が効率化することを指します。そして３ステップ目のデジタル・トランスフォーメーションは、冒頭でお話ししましたとおりデジタルによる社会や生活の変革を指しております。

続いて、基本理念についてです。こちらに掲げておりますとおり、基本理念については、時代に即応し続けＤＸ推進に誰一人取り残さないまちを掲げております。まずは時代の情勢に合ったふさわしい対応が取れること。つまり、デジタル技術をうまく活用して町民サービスを向上させること。そして、デジタル技術の活用が一人一人の町民がそれぞれ幸せを感じられて希望を持てるようにすることです。これが総合計画で目指すべきまちの将来像である、「共に築く希望の未来、しあわせ感じる元気まち」の実現につながると考えておりまして、このような理念を掲げております。幅広い年代の町民の方々がいらっしゃいまして、デジタルへの対応能力は当然異なってきます。全ての施策が全ての町民に有益、刺さるものは難しいと正直考えておりますけども、まちのＤＸ推進全体で見たときには誰一人取り残さないとなるように進めていく必要があると考えております。また、よりよい行政サービスを提供し続けることが求められている中で、デジタル技術を活用しない手はありません。普段の生活の中でもスマートフォンが欠かせないように、デジタルは、今はもう生活インフラの一つになってきております。高齢者の方でも多くの方がスマートフォンを持ち、ＬＩＮＥで孫とビデオ通話を楽しむ時代です。その中で、行政サービスだけが対応しいていかないことにはなりません。デジタル化だけに限った話ではないですけども、それぞれの時代にマッチしたことをできるだけ早く対応してサービス提供することがよりよい行政と言えると思います。そういった意味で現代では単にデジタル化だけに過ぎませんので、デジタルの活用で時代に即応し続けることが必要だと考えております。このような思いから、時代に即応し続け、ＤＸ推進に誰一人取り残さないまちへという基本理念を掲げております。

次に、基本指針についてです。ＤＸ推進を図るための基本的な考え方を７つ示しております。

１つ目、町民本意であること。これは当たり前ですけども、行政サービスが町民や事業者のため、町民等のニーズを正確に捉えることが重要であるという意味です。また、提供されるサービスについても、操作がしやすいとか、町民視点に立った見方が重要と、こういう指針を示しております。２つ目、町民に優しいこと。これは、基本理念にも掲げましたとおり、高齢者を始めとした誰一人として取り残さないことがおのおのの幸せ実感につながるという考え方か

ら、全ての町民にとって親切で取り組みやすい優しいデジタル化が重要であるという意味で作りました。３つ目、現場から学ぶことです。ＤＸ推進を検討する中で、机上の空論とならないように注意する必要があります。課題の現場に足を運んで情報収集をして、根本原因を追及して解決に向かっていくことが真に町民が求めるサービス提供によりつながるという意味でつくっております。４つ目、失敗を糧とすることです。よく言われる役場の前例踏襲主義は、失敗しない点ではいいことかもしれませんけども、デジタル・トランスフォーメーションという変革を推進する場面においては、これまでどおりのことを行っていては新たな価値を町民に提供できません。むしろ、これまでと何も変えないことは現状維持ではなく、全てが進歩している中では、総体的に見て退化していると言っても過言ではないと思っております。新たなことに挑戦していくことで失敗することはあります。ただ、失敗したらそれで終わらず原因究明と改善を繰り返していくことが、その先にある成功につながっていきます。デジタル化に限った話ではないかもしれませんけども、時代にあった行政サービスを提供し続けていくためには、失敗として終わらせずに、失敗を糧として改善し続けられる組織体制をつくることが重要でございます。５つ目、データを活用することです。これまでの経験や感覚はときに重要となりますけども、それだけではなく実積や事実に基づいた具体的な数字等で示されるデータを活用しまして、根拠に基づく的確なＤＸ施策の立案が重要という意味です。また、国の方針でも示されているように、データをなるべくオープンにして、幅広い視点で様々な機関が連携しながら行政サービスの向上に活用していくことが求められています。６つ目、小さく始めることです。デジタル技術の進歩はすさまじいスピードで進んでおります。ときに長期の検討を要し大きなプロジェクトを進めることもあるかと思います。ただ、基本的に革新速度が早いことを踏まえれば、小さく始めて迅速性を高めることが町民へのサービス還元の意味でも重要ですし、まちとしても失敗したときの代償は小さくなります。そういう意味で小さくて始めることはデジタル化推進に重要です。７つ目、感謝の気持ちを忘れないことです。基本指針にしては、少し珍しいかもしれませんけども、現在の白老町があるのは、町民や事業者、元職員、議員の皆様、元議員の皆様方が様々な努力を重ねて困難を乗り越えて積み上げてきたものです。その上には今の白老町があります。よりよいまちにしたいという先人たちに対して感謝の気持ちを持つとともにデジタル・トランスフォーメーションを進める上でも各課当然横断的な議論が出てきます。町としてこの分野だけ進んでいるのではなく、全体として進めていく必要がありますし、全ての課がこのデジタル技術の進歩を考えれば、デジタルを活用していくのは当然になっていきます。そういった中でも、これは内部に向けたメッセージではありますけども、お互いに協力し合うことが必ず必要になってきます。お互いに感謝の気持ちを持ちながら検討を進めることがＤＸの推進をスムーズに、そしてよりよいものに移行していく考えで、こちらの指針をつくっております。以上が７つの基本指針です。

続きまして、基本施策です。基本施策については、ここに示しているよりも、さらに具体的な施策があるのですけど、別途実施計画を策定する予定でございます。ここは大枠として捉えていただければ幸いです。ＤＸ推進の基本施策については、冒頭で申し上げました自治体ＤＸ

推進計画で国もある程度こういった計画と示されているものはあるのですけども、市町村もすごく大きく変わるものではないです。大きな枠組みとして３つ掲げておりまして、１つ目が町民サービスのＤＸ、２つ目が地域社会のＤＸ、３つ目が行政運営のＤＸです。町民サービスは利便性の向上の観点から活力あふれるまちづくり、そして効率的な行政運営の観点から３つの枠組みを示しております。個別の施策については、こちらの３つにまたがるものはあるのですけども、合わせて10個示しております。各種手続き、申請のオンライン化を進める①行政手続きのオンライン化、②ホームページやＳＮＳ等のサービスの活用を進めるデジタルサービスの拡充、③マイナンバーカードの利活用、④地域社会全体のＤＸの実現に向けて、様々な業種のデジタル・トランスフォーメーションを支援する事業者ＤＸを支援、⑤町民への理解、浸透、普及活動を行う町民ＤＸの支援、⑥オープンデータ等を進める官民データの活用の推進、⑦令和7年度に控えておりますシステム標準化、⑧行政内部の事務効率化を進めていく行政業務のデジタル化、⑨国、北海道、市町村と連携を進めていく行政機関連携、⑩通信インフラや認証基盤などサービスの基盤となる部分の整備を進めるデジタルインフラの整備といった、10個の施策を掲げております。これらをさらに細かくして実施計画の各事業の計画を作っております。また、図で言うと下になるのですけども、各施策に共通して必要となるものを共通施策として４つ示しております。デジタル関連法の準拠、セキュリティ対策及び個人情報の適正な運用、デジタルデバイド対策、業務継続性の確保、こちらの４つを共通施策としております。

最後に、推進戦略についてです。推進体制としましては、ＤＸの作業部会を８月に発足したと説明をいたしましたけども、作業部会、その上にＤＸ推進委員会がございます。そして副町長を議長とする情報化推進会議が基盤となっております。さらに、推進体制に関しましては、よくほかの市町村でも見られるのですけども、副町長にＣＩＯという最高情報統括責任者といった役職を設置することも検討しております。推進手法と進捗管理についてでございます。推進手法については、ＰＤＣＡサイクルによる継続的な改善、そしてＯＯＤＡループによる迅速な意思決定という手法を同時に活用して、事業の進捗や成果などを適切に評価し、さらに見直し、改善を進めていきます。また、年度ごとにＫＰＩ手法を設定し進捗管理をしていきます。これは、実施計画に示す項目ごとに目標を設定し、その進捗を年度内で管理していくものでして、このＫＰＩの設定につきましては、今後各推進を進める担当課と設定をしていくところでございます。

資料の最後のページの１枚です。白老町ＤＸ推進計画実施計画担当部署一覧表でございます。こちらについては、先ほど申し上げましたこの基本計画に基づく実施計画です。これを一覧として示しております。これを参考資料とお示ししまして、説明は以上とさせていただきます。

○議長（小西秀延君）　ただいま説明がありましたが、この件について特に確認しておく必要がある方はどうぞ。

６番、前田弘幹議員。

○６番（前田弘幹君）　６番、前田です。事前資料の計画（案）の 15、16、17 ページにある、いわゆるネガな部分、これを進めるに当たってのデジタルインフラの整備とか業務継続性の確

保、デジタルデバイド対策の部分で、当たり前に考えたときに、この技術を使って進めていくべきとは思うのですけど、その対局あるこれをやるに当たって電源の確保とか、どの段階で一緒に検討されていくのか。このＤＸ推進計画を進めるに当たって、結果的に 16 ページの一番下に書いてある共通施策４、業務継続性の確保の部分で２行目。災害などにより電気が使えない場合等々の、デジタル化のネガな部分が担保されないと、せっかくいいものができても難しいのかと。役場に非常電源があるとは思うのですけど、そういうものの容量の確保の部分、もっと大きくするとか、一緒にある程度整備していかないと、いいものがいざというとき使えない部分があると思うので、町民本意であるという部分でも、結局今持っていない人たち、何かの資料を取るときはいいですけど、ほかのこれからの技術のものを家でやろうと思ったらパソコンがないとかの部分も、これを実施される頃には皆様持っているのでしょうけども、町民本意の部分が今の段階では厳しいのかと。それも含めていつの段階で一緒に考えていくのか、期間として先にないのかと思うのです。

○議長（小西秀延君）　前田弘幹議員からの質問で 15 ページから 17 ページの間に書かれている、これから行われる部分でかなり予算もかかっていく、これを実施していく上でリスク的なこともいろんなことが考えられると。町の今の説明では、これからまた細かいことを落としていくと説明がありましたが、実施計画に向けてのお考え等がありましたらどうぞ。

高橋行財政改革室長。

○企画財政課行財政改革室長（高橋裕明君）　この計画にはいろいろ懸念材料があると思いますが、それについての補足説明ですけども、質問がありました継続性の確保の件については、公共施設とか避難場所には当然ソーラーシステムを配置していく計画になっています。どちらが先かの議論は難しいのですけども、そういうものを踏まえながら５年後には完成形に近づいていく計画は立てております。保管材料とかインフラをなおざりにしていったのではダウンしたら終わりですから、そういうことは想定に入っています。

○議長（小西秀延君）　６番、前田弘幹議員。

○６番（前田弘幹君）　６番、前田です。伝わっていないかもしれないですけど、ここでＤＸの計画をやろうとしたときに、先ほど言った電源の確保とか、あえてここでは触れないのでしょうけど、先ほど高橋室長が言ったように、違う部門で電源はやっていきますと、いつ合併するのかが聞きたいのです。

○議長（小西秀延君）　大黒副町長。

○副町長（大黒克己君）　今の議員の質問は理解した上で、本日の説明はＤＸの推進に特化した内容になっておりますので、ご心配されているような対極にある基盤とかどのような形で、いつの時点で合体するのかと、極端に言えばそういうことかと思うのですけど、あくまでも非常電源のことを申し上げれば、これは今も非常電源ありますし、今後それぞれの避難所でも非常電源を取れるような発電機を用意しているところもあります。いつの時点で100％合体ということは今申し上げられませんけど、これからＤＸを進める上で必要な基盤も違った形の計画で、そこは相乗効果を上げてやっていきたいと考えおります。答えになっているか分からないです

けど、同時に進行といったら語弊があるかもしれないですけど、これだけを推進することではなくて、合わせて必要なものについてもそれぞれ継続的にやっていきたいと考えおります。

○議長（小西秀延君）　高橋企画財政課行財政改革室長。

○企画財政課行財政改革室長（高橋裕明君）　説明をしたとおりなのですけども、今日は基本計画の説明で詳細の説明はできませんけども、１枚ものがあります。その裏面の業務継続性の確保の中で、公共施設や各避難場所、避難所におけるソーラー型蓄電池の設置は想定しております、必要なものはそれだけではないかもしれないです。必要最低限のものはこの計画にもうたわれていて、それを事業化していくのがこの計画だということでご理解をお願いします。

○議長（小西秀延君）　ほか確認しておく必要がある方はどうぞ。

１番、水口光盛議員。

○１番（水口光盛君）　１番、水口です。 はじめに（３/３）にあるのですが、これまでの経過と今後の予定ということで、この計画をつくるに当たって各課１名、オブザーバー１名で、皆さんでこの計画を作ったことを聞いております。この計画は自前と言いますか、役場の中で話し合った計画で、この計画を見て私はいい計画だと思いました。これがコンサルタントとかＩＴベンダーに 100 万円も 200 万円もかけた計画だとしたら物足りないと思いましたが、職員が集まって知恵を絞った計画は白老町らしいなと思っています。特に基本計画７つあります。その中には、私も今まで職員でいましたけど、やはり小さく始めることは大事です。失敗を糧とする、失敗したら大きな失敗の前にやり直せばいいと思うのです。そして、どんどんやっていく。そして最後、感謝の気持ちを忘れない。ＤＸやＩＴを進めるときに、必ず誰かに聞いたり、相談したりしなければ横断的にはできないと思うのです。一つの課や係がやるのはできないので､やはり感謝をしながらやっていく｡その中でアナログも残しつつ誰一人取り残さない、これは白老町らしくていいなと思って。計画を作った方々、取りまとめた方、これを推進していただければと思います。

そこで１つ、副町長にお聞きします。この計画を実施するに当たって、強いリーダーシップが必要だと思っております。係とかみんなが集まって各課から１名集まってやろうとしても、町長もですが、副町長のリーダーシップがなければ、この計画は上手くいきませんし、先ほど個々の実施計画をやっていく上でいろんな財源を使ってやっていくのでも、やはり副町長がやるという気持ちがなければ予算化してもなかなかいいものができないと思います。副町長、これは白老町として進めていく考えがございますか。教えてください。

○議長（小西秀延君）　大黒副町長。

○副町長（大黒克己君）　叱咤激励のご意見をいただきまして、ありがとうございます。私も議員がおっしゃったように、計画を初めて見たときに、手前みそになりますけど、すばらしいと思いました。このＤＸの作業部会を５回開催した中で、様々な意見が出たり、確かに職員の中にも推進派だったり、あるいは現状維持派だったり、なかなかそこを取りまとめていくのが非常に難しかったと感じておりますし、事務局もかなり意識を高めて取りまとめて、やっとこのような形にできたのはすばらしいことだと思っております。このような計画が出た以上、こ

れをどんどん推し進めてしっかり町民サービスの向上につなげる。あくまでもＤＸを活用することによる職員の業務の効率化もあまり時間をかけずにやることによって、ほかの業務に回す時間をつくることができる、この辺は一石二鳥にもなりますので、しっかり私も先頭に立って職員を引っ張っていきたいと考えております。

○議長（小西秀延君）　ほか確認しておく必要がある方はどうぞ。

７番、森山秀晃議員。

○７番（森山秀晃君）　７番、森山です。ＤＸの推進計画はすごくいいと思います。最初に榧野主任がおっしゃっていた、現状維持はただ維持するだけではない、周りが成長するから置いていかれるだけですというのは大切だと思うのです。この計画の中では、段階的にこういうふうにやっていく、こういうものをつくっていくとはあるのですけど、私も数か月しか議員やっていないのですけど、現状で大量の資料があるのです。これをやっていく、これをつくっていくということも大事なのですけど、これをやめるということも入れたほうがいいのではないかと思っています。各課から20名とオブザーバー１名でこの計画をつくっている協議会の中で、町民に最初から押しつけるのは難しいと思います。役場の中で紙を使うのはここでやめましょう、ここの部分の紙を使うのはここでやめましょうという期間も必要だと思うのです。これは、もちろん議会も一緒だと思うのです。議会もいつまでもパソコンでも資料をやって紙媒体も作って、言葉失礼ですけどただの無駄だと思うのです。無駄はいいことは何もないと思うので、ここでこれをやめるということも一緒に入れたほうがいいと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（小西秀延君）　榧野企画財政課行財政改革室主任。

○企画財政課行財政改革室主任（榧野　誠君）　議員からのご指摘ですけども、具体的には実施計画の中で、話題に上がりました紙が無駄という話を取ってみれば、当然ペーパーレス化を進めていきます。具体的に実施年度、令和７年から８年に示して推進をしていきます。その中で、ペーパーレスであれば、まずは現在これから発生してくる文書の電子化です、今保存してある文書の電子化を進めていくことを検討しております。さらにＤＸの作業部会もこれまで５回開催しておりますけども、ＤＸの検討をするのにわざわざ紙を印刷してというのはやはりナンセンスですので、タブレット端末を活用しながらペーパーレス会議を試行的に実施し、実際に自分たちでも取り組めるようなことも始めながら進めているところでございます。

○議長（小西秀延君）　ほかございますか。

13番、広地紀彰議員。

○１３番（広地紀彰君）　13番、広地です。まずは計画策定、大変御苦労さまでした。感謝の心を忘れないとか、端々に非常に個性的で努力をしたのだろうと見て取れる計画だと感じました。この計画がこれから総合計画と連動してどのような予算取りが成されて実行されていくのか。全員協議会ですので、２点だけ確認させていただきます。まず１点目、本計画は、いわゆる自治体ＤＸに基づいた推進計画だと認識しておりまして、これが第６次総合計画実施計画には、生活環境の中に地域情報化で電子自治体の推進として１億2,000万円、地域情報化の推進として2,500万円余りの形で総合計画にも実施計画として予算取りの見通しが成されているとこ

ろですが、このような計画に対してＤＸ推進計画に基づいて整備が成される認識でよいのかどうか伺います。

○議長（小西秀延君）　高橋企画財政課行財政改革室長。

○企画財政課行財政改革室長（高橋裕明君）　総合計画との関係ですけど、現在、先ほど来説明しているとおり実施計画を作成しております。実施計画には事業の項目と実施年度、その内容と予算と人工数を入れた新しい計画になっているのですけども、この事業には何人工の労力が必要で幾らかかるかを示している計画になります。そのとおりいくかどうかは別です。予算が取れるか、配置ができるかの問題がありますから、そういう中で進めていこうとしているのですが、今は、実施計画ができた段階で総合計画との連動を図っていくということであります。総合計画をそのまま置き去りにすることはないと思います。

○議長（小西秀延君）　13番、広地紀彰議員。

○１３番（広地紀彰君）　13番、広地です。現状、認識の押さえとして、具体化されていくということで、予算の枠組みではない議論ということで分かりました。

ＤＸ推進計画４ページ目に、抜粋として掲載されておりましたけども、自治体ＤＸ推進計画の取組と合わせて取り組むべき事項として、デジタル田園都市国家構想の実現に向けたデジタル化を合わせて取り組むべきという規定が総務省のデジタル・トランスフォーメーション推進計画の中にも記載されています。これはあくまでも自治体ＤＸの取組だと思いますけど、いわゆるデジタル田園都市国家構想の取組み等々は、別途改めて自治体ＤＸと合わせながら今後取り組んでいく認識でよろしいのかどうか、今回認識の確認だけ伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君）　増田企画財政課長。

○企画財政課長（増田宏仁君）　デジタル田園都市国家構想との関係性のお話です。現状、町としてはまち・ひと・しごと創生総合戦略をつくっておりまして、当初国もまち・ひと・しごと創生総合戦略という名称でつくっていたのですけども、国のほうが一足先にデジタル田園都市国家構想と模様替え、看板の架け替えがありましたので、うちの総合戦略も来年度改定を予定しておりまして、今年度ＤＸ推進計画が策定されますので、それを踏まえて町としてのデジタル田園都市国家構想の総合戦略を来年度改定に当たる予定をしておりますので、当然この計画もそこに跳ね返ってくる、反映してくると思っております。

○議長（小西秀延君）　ほか確認をしておく必要がある方はどうぞ。

５番、西田祐子議員。

○５番（西田祐子君）　本日の説明どうもありがとうございました。やっと動き始めたかと思っております。51年前にコンピューターが出まして、もう50年過ぎているのです。やっとコンピューターの中で、人とコンピューターが上手く付き合っていくのだと感じております。私たち議員も前回の選挙で随分若返りまして、デジタルを子供のときから使っている世代になってまいりました。役場の職員の皆さん方もそういう方々が多いと思うのですけども、白老町は非常に高齢化が進んでおりまして、先ほどから言われているように町民と共にと言ってもなかなかついて来られない町民が多いのです。そういう中で、議会の私たちがやるべき役割は、行政

と一緒になって率先してきちんとやっていくことが大事なのではないかと感じております。町民を代表して議会に来ている以上は、高齢者の方々また電子機器に普段触れないような方々にお伝えしていくのが議員の使命だと思っております。本日も紙資料をやめてはという意見の議員もおりましたけども、議会の議員も一生懸命頑張ってついて行こうと思っておりますので、どうか行政も議員と一緒に町民の皆さん方にデジタル・トランスフォーメーションを一緒にやっていけるようなまちづくりをしていただきたいと思います。ぜひよろしくお願いいたします。

○議長（小西秀延君）　大塩町長。

○町長（大塩英男君）　頑張ってくれという激励と捉えております。今回のＤＸ推進計画の策定趣旨の中に、人口減少の社会課題への対応と書かせていただいております。議員の皆様もご承知のとおり、人口減少に対応していかなければならないのは、将来的なことを考えていくと、役場の内部組織も職員数の減少が危惧されている現状の中では、デジタルだけではなく複層的にいろいろ対策を考えていかなくてはならないのですけども、私たちの使命としては、行政サービスの質を決して落としてはならないと考えますと、やはりデジタル技術の活用は喫緊の課題となっておりますので、やっとというお声もありましたけども、この辺は自治体の事例も含めた中で白老町としてできること、そして大事なことは前田議員からもお話あったように、リスク対応とか、うちのまちにご高齢の方が多いことも含めて、森山議員からやめられることはやめるべきいう貴重なご意見もございましたけども、アナログ的に紙に残さなければならないものは残さなければならないと思っておりますので、その辺のバランス感をしっかり考えて、このＤＸ推進に取り組んでいきたいと思いますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

○議長（小西秀延君）　ほか質疑をお持ちの方はいませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小西秀延君）　質疑なしと認めます。

ご意見をお持ちの方はいらっしゃいますかでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小西秀延君）　ご意見なしと認めます。

これをもって白老町ＤＸ推進計画（案）についての協議を終了いたします。

◎閉会の宣告

○議長（小西秀延君）　以上をもって本日の全員協議会を閉会いたします。

（午後　２時５２分）